

日本養鶏産業研究会 (JPIS TRA)・第七回研究セミナー

日本養鶏産業研究会

日本養鶏産業研究会(加藤宏光会長)は平成二十一年十一月二十六日から二十七日にかけて、陽日の里 あずま館コンベンションホール(福島・二本松市)において、「日本養鶏産業研究会(JPIS TRA)・第七回研究セミナー」を開催した。

本セミナーは二〇〇八年秋に起きたリーマンショック以来続く消費減退により、鶏卵・鶏肉の販売不振や需給バランスの崩れ、低相場、国際競争等、数々の問題を抱える養鶏産産を踏まえ、「流通と生産のバランス(国際競争含む)」をメインテーマとして掲げ、各方面の専門家の意見をもとに問題提起や意見交換を行うことを目的として行われたもの。本研究会には、養鶏、流通、製菓、飼料、機械設備関係者等約一二〇名が参加した。

開会にあたり、加藤会長は「養鶏産産も世界不況の影響を受けざるを得ない状況下において、非常に苦しい思いをして来られた方々が多いことと思う。その中で実際現場において考えていくにあたり、とくに卵のマーケットがどのように動いているのかということを生産者サイドから実際にマーケットに入って色々考えてみるということも含め、今回は市場に近い視野で物事を考えることをテーマとして進めていきたい」と述べ開会の挨拶とした。

セミナーでは近年における東南アジアやインドネシアにおける鳥インフルエンザ、日本国内の家禽における鳥インフルエンザ発生状況の報告の他に、米国のDDGS使用事情や鶏卵流通における新たな品質評価方法の提示、鶏卵の安売りに対するアンケート調査結果の報告等、内容は多岐にわたった。

▼一日目
プログラムは以下のとおり。

- 一、高病原性鳥インフルエンザに関する情報提供
鳥取大学鳥由来人獣感染症疫学センター長伊藤壽啓氏が「東南アジアにおける高病原性鳥インフルエンザの情報」、(株)PPQC代表取締役加藤宏光氏が「豊

橋市で発生したウズラにおける高病原性鳥インフルエンザ(H7N6)および「韓国における鳥インフルエンザワクチン(H9N2)に関する調査報告」、(株)PPQC業務本部長白田一敏氏が「福島エリアにおける野生のカモ・白鳥の糞からのインフルエンザ分離状況」についてそれぞれ報告した。

▼二日目

- 一、新型インフルエンザに関するパネルディスカッション
座長・JAあいち経済連農畜産物衛生研究所技術参与合田光昭氏、パネラー・伊藤壽啓氏、加藤宏光氏、生産者

二、米国のDDGSの使用実情
座長・中部飼料(株)研究技術部顧問川村悦春氏、助言者・群馬県畜産試験場中小家畜係独立研究員後藤美津夫氏、加藤宏光氏が「DDGSに関する調査報告」について報告。

三、鶏卵流通における品質評価ならびに安売り卵に関して
(株)イトヨーカ堂QC室食品担当/東京海洋大学非常勤講師伊藤正史氏が、「この一〇年を振り返って」、(株)アグリテクノ伊藤幸二氏が「鶏卵の品質評価についての検証」、PASKO代表奥田和久氏が「鶏卵流通における安売り卵の実態調査報告」

鶏界情報

についてそれぞれ報告した。また、パネラーに(株)イトーヨーカ堂Q.C室食品担当／東京海洋大学非常勤講師伊藤正史氏、主婦連合会副会長和田正江氏、同連合会食料部常任委員大熊礼子氏を招き、消費者、流通・小売業者の立場から意見を述べるディスカッションも行った。

